

令和8年度第1回

幸手市総合教育会議会議録

招 集 期 日	令和8年4月21日(火) 午前9時00分
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第2会議室
開 会 の 日 時	令和8年4月21日(火) 午前9時00分
閉 会 の 日 時	令和8年4月21日(火) 午前10時12分

	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
出席状況	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	林 晴 実	欠席
	教育委員	高島 勝也	出席			

傍聴人：0人

書記：朝見 佳晃・坂本 康太

	職 名	氏 名	職 名	氏 名
議事参加者	総合政策部長	安部 貴昭		
	教 育 部 長	仙田 茂雄		
	政 策 課 長	山本 悟		
	教育総務課長	大竹 孝典		
	学校教育課長	中沢 朋宏		
	社会教育課長	内藤 雅士		
	政策課主幹	小森谷 和則		

議 事	顛 末
<p>開 会 午前9時00分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第1 協議調整事項 及び報告事項 報告事項第1号 「幸手市立学校における教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定について</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 事務局から説明をお願いする。</p> <p>学校教育課長 資料について説明する。 《意見交換》</p> <p>藤沼委員 いま求められている社会的なニーズに対して、教育委員会及び学校現場ではこれまで重点施策として取り組み、具体的な対策を講じてきた。しかしながら、現在はこれらを見直すべき時期に差し掛かっていると考える。今一度バリ取り・面取りを行い、更なる連携を図り、幸手市の教育現場の状況に適応した施策に整えていく必要があるのではないかと考える。</p> <p>教職員は、子どもたちが、多様化してきている社会に対応できる人間になれるよう、日々尽力している。しかしながら、現状では、教職員が受け取る報酬や授業以外に付随する様々な業務が、果たして十分なインセンティブとなっているのか疑問を抱くところでもある。</p> <p>また、日本は、先進国に比べるとやるべきことへの対応スピードが遅いとされる。この状況を打破するべく、国自体が変化を目指している。そして、自治体もまた時代の変遷にあわせた変革が求められている。教育の中核を担う存在として、学校がその役割を果たすべきである。</p> <p>子どもたちが持つ「原石」を磨き、その才能や可能性を引き出すことができるのは教職員の役割である。社会の変化に追いつけるような能力や知識を授けることこそ、教育の重要な使命である。それを実現するためにも、授業</p>

の内容における「厚み」を増していくことが不可欠である。

民間企業では、物事を「点から線へ」、そして「線を結んで面へ」と次第に発展させるプロセスを踏んでいる。このような連続性のある取組が、社会における発展を促進する原動力となっている。なお、ノーベル化学賞を受賞した人物もまた、長年にわたり積み上げをし続けた結果として受賞を果たしたのである。このような視点から、教育現場においても子どもたちの可能性を活かし、積み上げの重視を基本とした取組を進めていくべきである。

教育部長

ご意見を踏まえ、勤務時間だけを減らすのではなく、厚みのある授業を行えるような環境作りを行っていきたい。

高島委員

前例のないことはなかなか取り組まれない。つまり、前例を作ろうとしなければ、永遠に新しい前例は生まれないということである。これからの教育においては、前例のないことでも積極的に取り組んでいくことが必要ではないか。これまでどおりにやってきたことをそのまま続けていては、何も変わらない。歴史的には、織田信長が前例に囚われない考え方で行動し、時代を変えてきたという例がある。今私たちも、大きく変化すべき時期に差し掛かっているのではないかと考える。

具体的には、ICTの活用についても課題が残っている。ICTを使うための時間は確保されているものの、実際に効率よく活用できているかどうかについては必ずしもそうとは言えない部分もある。教育委員会から学校への支援は行われているが、それが学校の中でどのように活かされているのかは十分に見えてこない。また、数値目標を立てても、現場の実態とはギャップが生じる可能性がある。

これらを踏まえると、教育そのものの本質をしっかりと見極め、それを取り決めていくことが何より重要である。そして、教育活動が本当に相手、つまり子どもたちにとって必要なものなのかを受け止め、その上で行動することが求められる。子どもに心に火を灯すことが教職員にとっては重要であると言われているが、そのためには子どもが興味を持てる授業を作り上げていく必要がある。

る。興味を引き出すためには様々なアプローチが考えられるが、それをしっかり行える環境づくりが学校に求められる。

また、教職員が学校文化を適切に引き継ぎ、活かしていくことも重要である。昭和の時代から令和の時代へと移り変わった今、それぞれの良さを見極めつつ、行き過ぎることのないバランス感覚が必要である。ハラスメントなど様々なしごらみや問題はあるものの、教育委員会等の支援を活用しながら、子どもの心に火を灯す教育活動につなげていくこと、それを次世代の教職員たちに伝えていくことが求められているのではないだろうか。

教育部長

「若い教職員をどう育てていくか。」ということに、しっかり取り組んでいきたい。

古沢委員

働き方改革や部活動の地域移行は、十全的な教育環境を作る中で必要な方向性だと理解している。しかし、現場の現状を聞く限りでは、「土曜日の練習がなくなってしまった。」などの活動時間が減ることで不安に感じることもあるようである。また、学校ごとや部活動ごとに運営方針の違いがあると生徒の戸惑いにつながっているように感じている。ガイドライン等で方針を示せると生徒にとっても保護者にとっても安心につながるのではないかと感じた。部活動だけではなく、教職員の働き方改革全体において、過渡期における子どもたちの経験が今までと同様に充実したものになるように、少しでも丁寧に整理されていくとよいのではないか。

教育部長

部活動の地域展開につきまして、しっかり取り組んでいきたい。

会田職務代理者

学校管理下とは、子どもが家を出て家に帰るまでの範囲である。しかしながら、教職員の勤務時間は子どもの登下校時間より短く、今までは通常の勤務形態がとれないといった現状があったのではないか。このような現状が、教職員への志望者が減少した原因ではないかと考える。

すべての人が古い考えを改め、新たな視点で働き方を見直さなければ、働き方改革は進んでいかないのではないか。昔の制度にも良いものは多く存在したが、過去にと

らわれずに未来を見据えて進まなければ、諸外国に後れを取る結果となるのではないかと考える。

教育部長

意識改革については、常日頃から話が上がっている。

教育長

今の日本は、定額働かせ放題の状態にある。かつては、コンビニエンスストアのように学校が地域に貢献することが求められ、それが良い学校とされていた。昔は、そのような状況の中でも教員という職業に魅力を感じていた人が多かった。しかし、現在ではこのような対応では教員が減少してしまう危機に直面している。残業を減らすよう県からの指針があり、残業は減少傾向にあるものの、業務量自体は増加しており、まるでアクセルとブレーキを同時に踏んでいるかのような状況である。この矛盾の中で、「いかに教育の質を下げないか」ということが最も重要な課題となっている。そのため、教員が授業に集中したり、子どもの相談に乗れる時間を確保したりするための条件整備を進める必要がある。また、配布した資料に記載されている文部科学省が提示した3分類についても、市町村単位で条件整備に取り組むべき内容であるといえる。幸手市では、この分類の中にあるプールの管理や指導といった業務は既に整備されており、解消されているといえる。本来、学校以外が担うべき業務については、教職員以外が積極的に学校に参加する体制を整えることが課題となっている。教職員が授業に集中できる環境をいかに実現するかについて、市と連携していきたい。

教育部長

市長から一言お願いする。

市長

委員さんから素晴らしい意見を頂戴した。本議題にある「幸手市立学校における教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」は当然ながらよくできているが、この計画にどのように魂を入れていくのか大事なのである。ここに書いてある問題に対して、アクティブではなくパッシブにあたる時代は終わり、自ら問題を抽出して取り組んでいく職員が必要なのである。「木を見て森を見ず」という言葉があるが、「教育とは何か」といった原点に振り返りながら、相対的に日本全体の教育の実態や課題を捉える必要がある。また、いかに問題を整理し、前に進む

<p>日程第2 その他</p> <p>閉 会 午前10時12分</p>	<p>かが必要であり、そのためには意識改革を行う必要がある。行政において最も大切なのは教育である。人の教育は曲がり角に差しかかっているが、逃げることなく、他国に負けない強い教育を実現していきたい。</p> <p>なし</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
---	---

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和8年5月19日</p> <p>教育委員 高島勝也</p> <p>教育委員 藤沼寛次</p>